

2018入試(2017実施)

岩手県立大学

自己を磨いて、
未来を描く。



岩手県立大学アドミッション・オフィス入試とは

岩手県立大学での勉学を強く希望する人を対象とした自己推薦による入試です。
岩手県立大学で学ぶことにより、大きく伸びる可能性があるかどうか、提出書類と面接の評価により選考します。



第1次選考出願	第1次選考結果発表	第2次選考出願	面接	合格発表
8月1日~3日	8月18日	8月24、25日	9月5~7日	9月15日
自己推薦調書、志望理由書など第1次選考出願書類と添付資料を提出してください。	第1次選考に合格した人は、第2次選考に出願できます。	志願票など第2次選考書類を提出してください。	出願書類にもとづき、能力、これまでの活動、目標などをアピールしてもらい、目標を本学で実現できるかどうかについて話し合います。	出願書類および面接を総合的かつ多面的に評価して合格者を決定します。

アドミッション・オフィス入試出願資格

次の(1)~(3)をすべてを満たす人は、本学のアドミッション・オフィス入試に出願できます。

- (1)高等学校もしくは中等教育学校(中高一貫校)を卒業した者および2018年3月に卒業見込みの者など、大学入学に必要な資格を有する者。
- (2)本学の社会福祉学部、ソフトウェア情報学部、総合政策学部のいずれかの学部での勉学を強く希望し、合格した場合は入学することを確約できる者。
- (3)自己自身の能力およびこれまでのさまざまな活動について、高く自己評価できるものを持つ者。

学生募集要項・出願書類の配付

「アドミッション・オフィス入試学生募集要項・出願書類」は、2017年5月31日に、岩手県立大学ホームページにてpdfファイルで発表・配付開始する予定です。ダウンロードしてご利用ください。

各学部からのメッセージ

■社会福祉学部

本学部のAO入試で求めているのは、社会福祉が対象とする様々なテーマ（例えば貧困、障がい者支援、児童虐待など）に対して強い関心を持ち、課題解決のために大学で専門的に学ぶ熱意のある人物です。福祉というと、介護やボランティア活動という直接的な支援のイメージが先行してしまいがちですが、一方で人間の身体や心理といったマイクロなレベルからコミュニティや社会構造、社会政策といったマクロなレベルまで、より広い視野で物事を見る必要があります。

本学部では、今日の社会問題の背景や課題、地域の現状などを総合的に学び、現場実習を通じて経験を積み重ねます。特にAO入試で入学した学生には、講義・演習による学習と現場実習での経験を結びつけ、他の学生に率先して学びの機会を作っていく積極的な姿勢が期待されます。そのためには、基礎的な学力に加え、自ら課題を設定し主体的・計画的に学びを進めていく自律性と、他者の意見に耳を傾けつつ、自らも率直に意見を述べるコミュニケーション能力が求められます。

AO入試では、(1)これまで力を注いできた活動から何を学び、大学でそれをどう活かすかという考えや、(2)社会福祉を志望する動機・問題意識と、大学での学修を通して追究したい目標等を中心に評価されます。ボランティア経験や特技そのものではなく、それらに対する姿勢や考え方、経験を踏まえた振り返りを明確に説明できる点も重視します。

AO入試にあたって、社会福祉を学ぶ上での自分の「強み」と同時に、今の自分に「足りないもの」についてもよく考えておいてほしいと思います。面接でも、単に自分をアピールするだけではなく、活動等を通して学習した点や気づきへ至った点について考察を深め、それを踏まえて、大学入学後および卒業後の目標をどのように本学部で達成できるかということを十分に説明できるようにしてください。

■ソフトウェア情報学部

AO入試では、高校時代に学業（資格取得の学習も含む）や課外活動などに情熱をもって取り組んだ経験があり、大学入学後にはその情熱をソフトウェア情報学の修得に傾けたいと強く望んでいる学生を求めています。高校時代の活動については、取得した資格の種類や大会・コンテストでの順位といった実績だけが評価されるわけではなく、自ら進んで取り組んだ活動なのかどうか、創意工夫した点はどこか、活動の中で得たものは何か、グループでの活動の場合はどんな役割を果たしたのか、といったことを重要視して評価します。

活動内容は、必ずしもコンピュータに関連したことでなくてもかまいませんが、本学部が教育研究の対象としているコンピュータやソフトウェアなどに関連した分野に強い興味や関心があり、熱意をもって取り組むことができることが合格に必要な条件の一つです。

現実のソフトウェアの開発は、単独で行われることはまれで、大人数が協力しながら開発する場合がほとんどです。開発過程ではさまざまな形式の文書（企画書、設計書、説明書など）が作成され、文書をもとにしてお互いにコミュニケーションをとりながら開発が進められます。そのため、ソフトウェア開発者には文書と会話によるコミュニケーション力が求められます。

このような背景から、AO入試では、出願書類と面接を通じてコミュニケーション力を評価しますので、高校時代の活動や入学後の目標・夢などを詳しく伝えられるように出願書類や面接の準備を工夫してください。

■総合政策学部

AO入試選抜では、次の視点を重視します。(1)身の回りの地域社会や環境などに積極的に目を向け、(2)「どうして?」「なぜ?」と疑問に思うことを大事にし、(3)その事象が起きた背景や原因を自らいろいろな方法で調べたり、(4)場合によってはその改善に向けた活動を試行したりするなど、主体的な一連の取り組みを行なう姿勢を重視します。そして、その活動の発端になった「思い」や、活動のプロセスで直面した困難にどう対処しようとしたかなど、体験に基づいてしっかりと自己表現してもらいたいです。

このような活動体験をもって入学したAO生は、現実社会を見る目やそれを受け止める感性の点で、他の入試で入学した学生たちより一歩先んじているといえます。また、活動の様々な場面で意見を出し合っただけで意思疎通を図ってきたはずで、活動を通して培ってきたこれらの素養は、大学生活において、ある場合にはリーダーシップを発揮したり、ある場合には、全体の意見をまとめる際の調整役を担ったりすることに活かされるはずです。ここにAO生への期待があります。

AO入試の合格発表は9月に行なわれますので、大学へ入学するまでに6ヶ月間の期間があります。この期間の過ごし方は大変大事です。望むことは、第一に、高校で学修すべき基礎学力をしっかりと身につけることです。そのために、入試センター試験の受験に備えて日々の学習に努めて下さい。第二は、これまで関心をもって取り組んできたこと（活動）を、さらに展開させることも考えてほしいです。入学前の約半年間の「ゼロ年次教育」は、上述の第一および第二のことに関して、意見表明・質疑・助言する形で進める予定です。

AO入試 Q & A よくある質問にお答えします

アドミッション・オフィス入試

アドミッション・オフィス入試は、岩手県立大学での勉学を強く希望する人を対象とした自己推薦入試です。岩手県立大学で学ぶことにより、大きく伸びる可能性があるかどうか、提出書類と面接とにより選考します。

書類と面接の評価では、次の2点を重視します。

- 能力およびこれまでの活動について、高く評価できるものがあるか。
- 入学後に何をどのように学びたいのか明確な目標と強い意欲があり、その目標を実現するために十分な能力を持っているか。

AO入試では、次のような学生を求めています。

- 自然、人間、技術、社会などに対して強い関心を持ち、自らテーマを発見し、考え、探求して、解決の方向を見出そうとする人。それを持続することのできる人。

与えられたことをこなすだけでなく、自ら進んで取り組み、工夫し、試行錯誤を繰り返しながら何かをつかみ取ったことが大切です。また、大学に入って学びたいことが具体的に明らかになっていて、学んだことを生かす将来の目標をしっかりと持っていることが評価されます。

- コミュニケーション力がある人、リーダーシップを発揮できる人。あるいは縁の下の力持ちになれる人。

AO入試の合格者には、意欲的な活動で周りの学生によい影響を与えてほしいと考えています。そのためには、相手の考えを正確に読み取り、文章や会話で自分の考えを的確に伝える力も必要です。

Q01 AO入試の目的はなんですか。
一般教科の試験では測れない資質、意欲、経験などを評価して、学生を選抜することです。

Q02 どのような人がAO入試に出願できますか。
本学での勉強を強く希望し、自分の能力やこれまでの活動について、高く自己評価できるものをもった人が出願できます。自己評価にあたっては、自分を客観的な視点で捉えてください。

Q03 岩手県外に住んでいます、出願できますか。
岩手県内・県外を問わず、高等学校や中等教育学校(中高一貫校)の卒業生・卒業見込み者であれば出願できます。

Q04 既に高校を卒業していますが、出願できますか。
卒業していれば年齢に関係なく出願できます。満23歳以上の方はAO入試の他に、社会人特別入試にも出願できます。

Q05 AO入試と推薦入試とはどこが違うのですか。
推薦入試が学校長の推薦を必要とするのに対して、AO入試はそれを必要としない、自己推薦による一般公募推薦入試です。したがって、1校あたりの出願人数に制限はありません。

Q06 AO入試と推薦入試との併願はできますか。
AO入試で不合格となった人が推薦入試に出願することは可能です。一般入試も同様です。

Q07 AO入試の不合格者が他の選抜区分(推薦入試や一般入試など)に出願した場合、不利になることがありますか。
選抜区分それぞれで選考方法が異なっており、選抜区分ごとに選考を行いますので、不利になることはありません。逆に、有利になることもありません。

Q08 AOで複数の学部を受験することはできますか。
試験日が同じですから、できません。

Q09 他大学との併願はできますか。
AO入試では、合格した場合に入学することを確約できることが出願の条件となっています。したがって、合格した場合には、他大学と併願しても、本学に入学することが求められます。

Q10 AO入試の出願(第1次選考)に必要な書類は何ですか。
自己推薦調書、志望理由書、志願者評価書、調査書です。自己推薦調書には、自己評価できるものについての成果・取り組み方、学習活動、その他の活動、特に興味を抱いていることなどを記入します。志望理由書には、本学の学部・学科を志望する理由、入学後に何をどのように学びたいかなどを書きます。志願者評価書は、志願者の自己評価できるものについて把握し、客観的に評価できる人に記入してもらってください。

学部	2018(2017実施)年度 アドミッション・オフィス 入試募集人員		2017(2016実施)年度 アドミッション・オフィス 入試結果			
	総入学定員	AO募集人員	AO募集人員	出願者数	第1次選考合格者数	第2次選考合格者数
社会福祉学部 社会福祉学科	50	若干名	2	15	6	2
社会福祉学部 人間福祉学科	40	若干名	2	20	7	2
ソフトウェア情報学部	160	20	20	65	39	22
総合政策学部	100	若干名	若干名	21	10	3

Q11 AO入試の出願（第2次選考）に必要な書類は何ですか。

第2次選考志願票です。面接試験時に本人を確認するために利用します。写真を添付する必要があります。

Q12 評価のポイントは何ですか。

第1次選考のときに提出された書類の評価と、第2次選考での面接の評価を総合して最終合格を決定します。これまでの活動とこれからの目標の両方が評価ポイントとなります。

Q13 調査書は必要ですか。

必要です。AO入試は自己推薦入試ですが、高校での学習活動や基礎学力、課外活動などを把握するための資料として参考にします。

Q14 私のことをよく知ってもらうために、資料を送ることができますか。

出願の際に、自己推薦調書を補うものとして、出願用封筒に収まる範囲で同封することができます。

Q15 中学卒業以降の活動しか評価されないのですか。

基本的にはそうです。ただし、中学卒業以前から継続して行っている活動については、提出書類（自己推薦調書）に書き込むことができます。

Q16 部活動や課外活動などで優れた成績をおさめていなければ、評価されないのですか。

結果は積極的な活動の証拠として有効ですが、結果そのものよりも、活動を通して何を考え学び、どれだけ成長したかが重要です。

Q17 評価の対象となる活動を複数アピールしてもいいのですか。

構いませんが、アピールのポイントを絞らずにたくさんを羅列するようなやり方は、高い評価を得られません。大学に入って、何のために何をやりたいのかかが明確になるように工夫しましょう。

Q18 添付資料はたくさん提出した方が有利ですか。

そうとは限りません。資料に概要を添付したり、その資料で何をアピールしたいのかを明記したりなど、自分をより良く理解してもらう努力が重要です。また、資料は出願時の封筒に収まる量にまともなくてはなりません。ちなみに、面接のときにパソコンなどを使った説明はできますが、機材の貸し出しはありません。

Q19 志願者評価書は誰に書いてもらえばいいのですか。

志願者の「自己評価できるもの」について最もよく把握していて、かつ客観的に評価できる方をお願いしてください。クラス担任、部活動の顧問、お稽古事の先生などに依頼する人が多いですが、この範囲に限られるわけではありません。ただし、親、親族、友人などは不適格でしょう。

Q20 字が下手だったり、話すのが苦手だったりすると、不利になりますか。

字が上手い、話すのが得意というのも資質の一つであり、評価されることはあります。しかし、字が下手でも丁寧に書く、話すのは苦手でも語るべきものはきちんと持っている、ということの方が大切です。

Q21 自己推薦や志望理由は用紙いっぱい書いた方がいいですか。

無理にたくさん書く必要はありませんが、与えられているアピールの場はできるだけ有効に活用すべきです。

Q22 募集要項や入試概要に書かれている、面接での「プレゼンテーション」とはどんなものをさすのですか。

面接を受ける人が、自分の考えを面接者に理解してもらうために行うすべての行為のことです。パソコンのプレゼンテーションソフトを使うことに限定されません。

Q23 AO入試のためどんな対策をとるべきでしょうか。

AO入試で求める学生は、前ページの「AO入試では次のような学生を求めています」にある通りです。自ら進んで一般教科以外の勉強や活動に取り組む人が評価されます。しかし、AO入試で合格するために、そのような勉強や活動をするというのは本末転倒です。一般教科の勉強に一所懸命取り組みつつ、自然、人間、技術、社会などに関心を持ち、自分なりに課題を発見し、行動するという、主体的で積極的な高校生活を送ることが大切です。

Q24 合格後にすることはありますか。

発表から入学まで半年以上の期間があります。この間、高校での勉強に力を入れ、大学での勉強への意欲を高めてもらうために、プレゼミナールへの参加、報告レポートの提出、英語や数学の課題への解答などを求めます。

Q25 AO入試で合格した学生と他の学生とでは、入学後のカリキュラムに違いがありますか。

ありません。しかし、勉強や課外活動に積極的に取り組み、まわりの学生により影響を与えてほしいと考えています。

募集要項ダウンロード、その他のAO関連情報は次のURLへ

<http://www.iwate-pu.ac.jp/examination/nyusi-yondai/30-4dai-ao.html>



お問い合わせ先

〒020-0693 岩手県滝沢市菓子152-52
TEL 019-694-2014 FAX 019-694-2035
岩手県立大学 教育支援室 AOグループ